

## 日本語教育学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学特論Ⅰ	言語理解学習過程	2	小河原 義朗	後期 火曜日 2講時	
日本語教育学特論Ⅱ	日本語学習者と学び	2	島崎 薫	前期 火曜日 2講時	
日本語教育学特論Ⅲ	学習者の口頭能力を考える	2	早矢仕 智子	後期集中 その他 連講	
日本語教育学総合演習Ⅰ	課題研究Ⅰ	2	島崎 薫 小河原 義朗	前期 水曜日 5講時	
日本語教育学総合演習Ⅱ	課題研究Ⅱ	2	小河原 義朗 島崎 薫	後期 水曜日 5講時	
日本語教育方法論研究演習Ⅰ	日本語教育における質的調査法	2	島崎 薫	後期 水曜日 2講時	
日本語教育方法論研究演習Ⅱ	話し言葉の教育	2	小河原 義朗	前期 金曜日 2講時	
日本語教育方法論研究演習Ⅲ	日本語教育方法論研究演習Ⅲ	2	高橋 亜紀子	前期集中 その他 連講	
日本語教育学研究演習Ⅰ	地域日本語支援	2	講師(非)	後期 水曜日 2講時	
日本語教育学研究演習Ⅱ	言語技能と教育	2	小河原 義朗	前期 金曜日 3講時	
日本語教育学研究実習Ⅰ	日本語コースのデザインと運営 ①	2	島崎 薫 小河原 義朗	前期 水曜日 3講時. 4講時	
日本語教育学研究実習Ⅱ	日本語コースのデザインと運営 ②	2	島崎 薫 小河原 義朗	後期 水曜日 3講時. 4講時	

科目名：日本語教育学特論 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM22208, 科目ナンバリング：LJS-LIN615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語理解学習過程
2. Course Title (授業題目)：The process of Language learning and understanding
3. 授業の目的と概要：人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students deepen their understanding of theories related to language learning. Students also analyze various teaching materials, their own teaching materials, and their microteaching practices to improve their ways of teaching in class.
5. 学習の到達目標：(1) 言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。  
(2) 理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is
  1. to help students explain theoretical backgrounds of language learning
  2. to provide them opportunities to analyze, create effective teaching materials and be able to apply them to teaching practice.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業実施方法（授業の実施形態：）  
第1回：イントロダクション  
第2回：言語の学習とは  
第3回：言語理解学習のメカニズム  
第4回：言語の記憶・処理過程  
第5回：言語の理解・産出過程  
第6回：学習科学  
第7回：教材分析（聴解）  
第8回：教材作成（聴解）  
第9回：模擬授業（聴解）  
第10回：授業分析（聴解）  
第11回：教材分析（読解）  
第12回：教材作成（読解）  
第13回：模擬授業（読解）  
第14回：授業分析（読解）  
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：  
レポート 30%、授業参加度 30%、授業課題 40%
9. 教科書および参考書：  
授業中に適宜資料を配布する。  
卯城祐司(2009)『英語リーディングの科学』研究社
10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。  
「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育学特論Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM12211, 科目ナンバリング：LJS-LIN616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語学習者と学び

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Learners and Learning

3. 授業の目的と概要：この授業では、学習に関する基本的な理論を学ぶとともに、それらの理論をどのように日本語教育をはじめとした言語教育の現場や留学生と国内学生がともに学ぶ国際共修などに応用できるのかを考える。授業の中で、理論を使い、授業をデザインする活動も行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will develop their understanding fundamental learning theories and think how these theories can be applied in language classes and intercultural co-learning classes. The course will provide students with opportunities to design a class based on the theories.

5. 学習の到達目標：・学習に関する基本的な理論を理解し、説明することができる

・それらの理論を利用した授業をデザインすることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

・understand and describe fundamental learning theories

・design a class by using these theories

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション、教育と学習について考える

第2回：社会文化理論から学習をとらえる

第3回：4つの学習モデル（学習転移モデル、経験学習モデル、批判的学習モデル、正統的周辺参加モデル）

第4回：インストラクショナルデザインとは

第5回：学習環境デザインとは

第6回：学習環境デザインの理論

第7回：実践コミュニティとは

第8回：実践コミュニティの理論

第9回：インストラクショナルデザインと学習環境デザインの融合

第10回：授業をデザインする：実践を分析する

第11回：授業をデザインする：実践を考える

第12回：授業をデザインする：発表準備

第13回：中間発表、コメント

第14回：修正

第15回：最終発表、まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学特論Ⅲ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：2 学期集中 単位数：2

担当教員：早矢仕 智子

コード：LM98834, 科目ナンバリング：LJS-LIN617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：学習者の口頭能力を考える

2. Course Title (授業題目)：Understanding oral proficiency of Japanese learners

3. 授業の目的と概要：日本語学習の4技能の中の「話す」能力について、音声データ（日本語学習者会話データベース等）を分析しながら、学習者の口頭能力の習得過程を理解する。学習者の口頭能力の向上を促進し、支援するための教師の発話、テキストや教材、試験の内容等について、様々な検討を加えながら、学習者のニーズに適う会話授業とは、さらには、コミュニケーション環境とはどのようなものかを考えていく。なお、授業において、「OPI (ACTFL Oral Proficiency Interview)」や「やさしい日本語」を取り扱うが、問題解決のために批判的に検討する姿勢を持ってほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, focusing on “speaking” ability among four skills of learning Japanese, students will understand the learners’ process of acquiring oral proficiency through analyzing speech corpus. This course offers an opportunity to think about effective conversation class and communication environment meeting learners’ needs by considering teacher’s talks, textbooks and materials, and exams in order to promote learners’ oral proficiency. In class, students are encouraged to think critically about “The ACTFL Oral Proficiency Interview (OPI)” and “Plain Japanese.”

5. 学習の到達目標：・学習者の様々な口頭能力の諸相を理解し、知識を深めることができる。

・口頭能力の評価基準や習得方法を理解し、実習や実践等の活動に運用することができる。

・学習者にとって、豊かなコミュニケーションを保障する教室活動や社会環境とはどのようなものか、自分のことばで説明できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is as follows.

1) To be able to better understand various aspects of learners’ oral proficiency.

2) To be able to practically apply the evaluation criteria and acquisition process of oral performance learned in class to teaching practice.

3) To be able to explain what the effective classroom activities and social environment would be to ensure abundant communication of the learners.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 「話すこと」会話・対話・雑談

3. 学習者の「話す」能力とは

4. OPI (ACTFL Oral Proficiency Interview) の理解

5. OPI のレベル判定の尺度と基準

6. OPI の実例（超級・上級）の検討

7. OPI の実例（中級・初級）の検討

8. 発話における非言語、あいづち、フィラー、沈黙について

9. 会話授業と教材の検討：質問

10. 会話授業と教材の検討：ダイアローグ

11. 会話授業と教材の検討：ロールプレイ

12. 「やさしい日本語」の理解

13. 「やさしい日本語」の検討

14. 課題発表と振り返り①

15. 課題発表と振り返り②

8. 成績評価方法：

レポート 40%・課題 30%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

日本語学習者会話データベース 国立国語研究所 <https://mmsrv.ninjal.ac.jp/kaiwa/>

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：指定された資料を読んだり、音声データを視聴したりする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学総合演習 I / Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫, 小河原 義朗

コード：LM13507, 科目ナンバリング：LJS-LIN618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究 I

2. Course Title (授業題目) : Topic Research 1

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study topics (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves afterwards.

5. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

(1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3) 各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）

第9回：修士課程2年生による結果報告

第10回：修士課程2年生による分析報告

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学総合演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗・島崎 薫

コード：LM23508, 科目ナンバリング：LJS-LIN619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Topic Research 2

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves.

5. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

(1)様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2)聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3)各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）とディスカッション

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）とディスカッション

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）とディスカッション

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）とディスカッション

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第9回：修士課程2年生による結果報告とディスカッション

第10回：修士課程2年生による分析報告とディスカッション

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）とディスカッション

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）とディスカッション

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育方法論研究演習 I / Methodologies in Japanese Language Teaching (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM23212, 科目ナンバリング：LJS-LIN620J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育における質的調査法
2. Course Title (授業題目)：Qualitative research in Japanese Language Education
3. 授業の目的と概要：学習者が持つ文化背景や考え方についての理解を深める質的研究の方法を学ぶ。研究計画、実施、そして論文作成に關しての基礎的な知識を得る。授業の中では、先行研究のまとめ方、問いの立て方、インタビュー、観察といった研究方法について学び、実際に自身の研究計画を作成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students learn the method of qualitative research in order to understand Japanese language learners' backgrounds. Students will earn fundamental knowledge of process of qualitative research such as creating research a plan, conducting a qualitative research and writing up a paper. In this course, students will review previous studies, make research questions, get to know research methodologies such as interview and observation. At the end, they will complete their own research proposal.
5. 学習の到達目標：・質的研究法の理論的背景、強みと弱み、倫理的課題を理解した上で、質的研究法を用いた研究計画を立てることができる。  
・研究論文の要素、構成、慣習を理解し、論文作成のための基礎的な知識を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, successful students will be able to:  
-Understand theoretical background, strengths/weaknesses and ethical issues of qualitative research and make a research plan by using them  
-Gain the fundamental knowledge of elements, structure and custom of research paper.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
第1回 インTRODakション、質的研究とは①  
第2回 質的研究とは②  
第3回 研究の切り口  
第4回 問いを立てる  
第5回 序章とは  
第6回 先行研究をまとめる (実際の論文を読む)  
第7回 先行研究をまとめる (先行研究を収集する)  
第8回 先行研究をまとめる (批判的に読む)  
第9回 先行研究をまとめる (先行研究の章を書く)  
第10回 インタビュー  
第11回 観察  
第12回 研究方法の検討①  
第13回 研究方法の検討②  
第14回 研究倫理  
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：  
授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：  
太田裕子 (2019)『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ -研究計画から論文作成まで-』東京図書。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。  
Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅱ／ Methodologies in Japanese Language Teaching (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM15210, 科目ナンバリング：LJS-LIN621J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要： 学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the contents and methods to improve oral language skills in the Japanese language classroom. Through activities and exercises, students will learn how to plan, practice and evaluate oral communication classes.

5. 学習の到達目標：(1)話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2)目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:

1. understand various class activities to improve speaking skills

2. create effective class activities and evaluate them through Japanese course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. コミュニケーション活動の実際

3. コミュニケーション活動の分析

4. 教材作成1

5. 模擬授業の実施1

6. 模擬授業の実施2

7. 授業改善・評価1

8. 教材分析1

9. 模擬授業の実施3

10. 模擬授業の実施4

11. 授業改善・評価2

12. シラバスの作成1

13. シラバスの作成2

14. 教案作成1

15. 教案作成2

8. 成績評価方法：

レポート30%・課題40%・授業参加度30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅲ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期集中 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM98823, 科目ナンバリング：LJS-LIN622J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育方法論研究演習Ⅲ
2. Course Title (授業題目)：Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)
3. 授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In recent years, the number of foreign residents has increased significantly, and at the same time, the number of foreign children whose mother tongue is not Japanese is also increasing in Japanese schools. In this class, students will develop their understanding of foreign children who need Japanese language supports and gain fundamental knowledge of Japanese language teaching and learning support for them.
5. 学習の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。  
2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。  
3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:  
-enhance their understanding of the current situation and issues of education for foreign children  
- understand and describe the difficulties in life and learning of children  
-gain fundamental knowledge of Japanese language teaching for children and be able to support them
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. オリエンテーション
  2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (1)
  3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (2)
  4. 子どもの生活や学習上の困難点 (1)
  5. 子どもの生活や学習上の困難点 (2)
  6. 子どもへの日本語支援の方法 (1) 受け入れの準備
  7. 子どもへの日本語支援の方法 (2) サバイバル・日本語基礎
  8. 子どもへの日本語支援の方法 (3) 日本語指導と教科の統合学習
  9. 子どもへの日本語支援の方法 (4) 教科の補習
  10. 子どもへの日本語支援体験 (1)
  11. 子どもへの日本語支援体験 (2)
  12. 子どもへの日本語支援体験 (3)
  13. 体験の振り返り
  14. 教師の役割
  15. まとめ
8. 成績評価方法：  
授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%
9. 教科書および参考書：  
文部科学省 (2019)『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm)
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
\*授業では、子どもの支援を実際に行うことを予定していますが、諸事情により実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本語教育学研究演習 I / Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LM23213, 科目ナンバリング：LJS-LIN623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域日本語支援

2. Course Title (授業題目) : Japanese Language Support in Local Communities

3. 授業の目的と概要：地域日本語支援の様々な現場について調べ、変遷や背景を理解するとともに、実際に現場を見学し、体験することで、それぞれの現場の学習者や教師・ボランティアの置かれている環境について理解を深め、支援の在り方について考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides students with opportunities to explore Japanese language support for foreigners in local communities and enhance their understanding of its history and backgrounds. In seeing and participating in activities conducted by local communities and governments, students can further understand foreigners and instructors/volunteers and deepen their thought of how such support should be.

5. 学習の到達目標：・多様な地域日本語の現場について理解し、説明できる。

・地域日本語の現場の多様な学習者について理解し、説明できる。

・その多様な現場での支援の在り方について自分なりに考えることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : After completion of this course, students are expected to:

- describe how Japanese language support in local communities is been conducted

- describe the diversity of foreigners/Japanese language learners in local communities

- make their own proposal of how local communities should support such diverse foreigners/Japanese language learners

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：地域日本語支援の現状（問題の洗い出し）

第3回：地域日本語支援の現状（取り組み事例のまとめ）

第4回：ポスターセッション準備

第5回：ポスターセッション

第6回：中国帰国者の背景と現状

第7回：外国にルーツを持つ子どもたちの背景と現状

第8回：地域の日本語教室の背景と現状

第9回：中国帰国者支援交流センターへの訪問

第10回：中国帰国者支援交流センター訪問の振り返り

第11回：国際教室への訪問

第12回：国際教室訪問の振り返り

第13回：地域日本語教室への訪問

第14回：地域日本語教室訪問の振り返り

第15回：まとめ

\*第9回、11回、13回は授業外の時間に実施し、実際に現場を訪問する。訪問日時は訪問先と履修生の都合を照合し、決定する。なお、教育現場の実施状況によっては内容を変更することがある。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学研究演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM15306, 科目ナンバリング：LJS-LIN624J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語技能と教育

2. Course Title (授業題目)：Language skills and Teaching

3. 授業の目的と概要： 学習者が話す、または書くことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉・書き言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、または書き言葉の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話す、または書く可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will explore what language teachers should do to improve learners speaking/writing skills in the Japanese language classroom,

5. 学習の到達目標：(1)話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2)目的に応じて話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動を考え、教材を作り、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:

1.better understand syllabus and classroom activities to improve learners speaking/writing skills

2.create effective teaching materials and evaluate them for themselves

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：コミュニケーション活動の実際1

第3回：コミュニケーション活動の実際2

第4回：会話・作文の分析1

第5回：シラバスの検討1

第6回：教室活動の検討1

第7回：会話・作文の分析2

第8回：シラバスの検討2

第9回：教室活動の検討2

第10回：会話・作文の分析3

第11回：シラバスの検討3

第12回：教室活動の検討3

第13回：フィードバックと評価1

第14回：フィードバックと評価2

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

レポート30%・課題40%・授業参加度30%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育学研究実習 I / Applied Japanese Linguistics (Practice) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時、前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫、小河原 義朗

コード：LM13308、科目ナンバリング：LJS-LIN625J、使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースのデザインと運営①

2. Course Title (授業題目)：Design and conduct a Japanese language course (1)

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、多様な日本語学習者に対応する多様な日本語コースのあり方について学び、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、実施する力を養うことを目的とする。前期は様々な日本語コースに参加し、多様な日本語コースについて知るとともに、その日本語コースで活動をデザインし、実践する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through teaching practicums in spring and fall semesters, students will explore a variety of Japanese language courses for diverse language learners and acquire skills in designing a language course for learners' individual needs, readiness and situations. In spring semester, students will observe and participate in various language courses and get to know diversity of language classes. Then they will design class activities and conduct them.

5. 学習の到達目標：・日本語のコースの多様性を知る

- ・様々な授業内活動について知る
- ・目的に合わせて簡単な活動をデザインすることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- ・understand variety of language courses;
- ・understand variation of class activities;
- ・design a small class activity according to purposes

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：コースデザインとは①
- 第3回：コースデザインとは②
- 第4回：多様な授業内活動①
- 第5回：多様な授業内活動②
- 第6回：多様な授業内活動③
- 第7回：授業案の作成①
- 第8回：授業案の作成②
- 第9回：授業案の作成③
- 第10回：授業案の作成④
- 第11回：実践と振り返り①
- 第12回：実践と振り返り②
- 第13回：実践と振り返り③
- 第14回：実践と振り返り④
- 第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に授業見学を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学研究実習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Practice)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫, 小河原 義朗

コード：LM23307, 科目ナンバリング：LJS-LIN626J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースのデザインと運営②

2. Course Title (授業題目)：Design and conduct a Japanese language course (2)

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、多様な日本語学習者に対応する多様な日本語コースのあり方について学び、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、実施する力を養うことを目的とする。後期は、自分たちで日本語コースをデザインし、実践する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through teaching practicums in spring and fall semesters, students will explore a variety of Japanese language courses for diverse language learners and acquire skills in designing a language course for learners' individual needs, readiness and situations. In fall semester, students will design and carry out a course.

5. 学習の到達目標：・コースデザインにおける基礎的な知識を使って学習者自身や学習者の状況に合わせたコースをデザインすることができる

・デザインしたコースを他の学生と協力しながら運用することができる

・自分の実践を振り返り、改善案を提案することができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

・design an appropriate language course for learners by using fundamental knowledge of course design;

・conduct the language course with other students;

・suggest an improvement based on their reflection.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：コースデザインの検討①

第3回：コースデザインの検討②

第4回：カリキュラムの検討①

第5回：カリキュラムの検討②

第6回：模擬授業と振り返り①

第7回：模擬授業と振り返り②

第8回：模擬授業と振り返り③

第9回：模擬授業と振り返り④

第10回：模擬授業と振り返り⑤

第11回：模擬授業と振り返り⑥

第12回：模擬授業と振り返り⑦

第13回：コースデザインの評価①

第14回：コースデザインの評価②

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に教壇実習を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし